QoS コマンド

ここでは、Cisco ASR 9000 シリーズルータでブロードバンドネットワーク ゲートウェイ（BNG）の QoS コマンドの設定に使用される Cisco IOS XR ソフトウェアのコマンドについて説明します。関連設定の詳細については、『*Cisco ASR 9000 Series Aggregation Services Router Broadband Network Gateway Configuration Guide*』を参照してください。

- qos account, 2 ページ
- qos output minimum-bandwidth, 4 ページ
- service-policy（QoS-BNG）, 6 ページ
- service-policy（インターフェイス）, 8 ページ
- show qos inconsistency, 11 ページ
- show qos interface, 14 ページ
- show qos shared-policy-instance, 20 ページ
- show qos summary, 23 ページ

qos account

QoS レイヤ 2 オーバーヘッド アカウンティングをイネーブルにするには、ダイナミック テンプレート コンフィギュレーション モードで **qos account** コマンドを使用します。 この QoS アカウントをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

qos account[**AAL5**|**user-defined** *offset* **atm**] [**mux-1483 routed**|**mux-dot1q-rbe**|**mux-pppoa**|**mux-rbe**|**snap-1483routed**|**snap-dot1q-rbe**|**snap-pppoa**|**snap-rbe**]

no qos account

構文の説明

AAL5	QoS の AAL5 を指定します。
user-defined	ユーザ定義のキーワードを指定します。
offset	ユーザ定義のオフセット サイズを指定します。
atm	L2 オーバーヘッドに ATM セル タックスを追加します。
mux-1483 routed	ルーティングされる mux-1483 を指定します。
mux-dot1q-rbe	mux-dot1q-rbe を指定します。
mux-pppoa	mux-pppoa を指定します。
mux-rbe	mux-rbe を指定します。
snap-1483routed	snap-1483routed を指定します。
snap-dot1q-rbe	snap-dot1q-rbe を指定します。
snap-pppoa	snap-pppoa を指定します。
snap-rbe	snap-rbe を指定します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

ダイナミック テンプレート コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
リリース 4.2.0	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。 ユーザ グループの割り当てが原因でコマンドを使用できないと考えられる場合、AAA 管理者に連絡してください。

このコマンドは、ダイナミック テンプレート タイプ PPP サブモードでのみ使用できます。

タスク ID

タスク ID	操作
qos	read, write

例

これは、**qos account** コマンドをダイナミック テンプレート コンフィギュレーション モードで設定する例です。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router# configure
RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# dynamic-template type ppp p1
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-dynamic-template-type)# qos account AAL5 snap-rbe
```

関連コマンド

コマンド	説明
qos output minimum-bandwidth, （4 ページ）	加入者の最小保証出力帯域幅を設定します。

qos output minimum-bandwidth

加入者の最小保証出力帯域幅を設定するには、ダイナミックテンプレートコンフィギュレーション モードで **qos output minimum-bandwidth** コマンドを使用します。

qos output minimum-bandwidth *range*

構文の説明

range	最小帯域幅の範囲（1 ～ 4294967295 kpbs）を指定します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

ダイナミック テンプレート コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
リリース 4.2.0	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。 ユーザ グループの割り当てが原因でコマンドを使用できないと考えられる場合、AAA 管理者に連絡してください。

このコマンドは、ダイナミック テンプレート タイプ PPP サブモードでのみ使用できます。 このコマンドで指定した値は、IGMP HQoS 相関が設定されている場合にのみ使用されます。 これは、結果の帯域幅が指定された値を下回らないようにするためです。

タスク ID

タスク ID	操作
vrrp	read, write

例

これは、**qos output minimum-bandwidth** コマンドをダイナミック テンプレート コンフィギュレーション モードで設定する例です。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router# configure
```

```
RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# dynamic-template type ppp p1
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-dynamic-template-type)# qos output minimum-bandwidth 10
```

関連コマンド

コマンド	説明
qos account, （2 ページ）	QoS レイヤ 2 オーバーヘッドアカウンティングをイネーブルにします。

service-policy（QoS-BNG）

親 S-VLAN の QoS ポリシーをイネーブルにするには、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **service-policy** コマンドを使用します。 この機能をディセーブルにするには、コマンドの **no** 形式を使用します。

service-policy output *service_policy_name* **subscriber-parent** [**resource-id** *value*]

構文の説明

output	サービス ポリシー アプリケーションの方向を示します。
service_policy_name	出力ポリシーのサービス ポリシー名を指定します。
subscriber-parent	S-VLAN ポリシーを設定します。
resource-id	この SVLAN およびそのすべての加入者に使用される目的のチャンクを入力できるリソース ID を指定します。
value	リソース ID 値を指定します。値の範囲は 0 ～ 3 です。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
リリース 4.2.0	このコマンドが追加されました。
リリース 4.3.0	**resource-id** キーワードのサポートが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。 ユーザ グループの割り当てが原因でコマンドを使用できないと考えられる場合、AAA 管理者に連絡してください。

resource-id オプションを指定しない場合は、SVLAN ポリシーおよびそのすべての加入者が、親インターフェイスが関連付けられているデフォルトのチャンクに割り当てられます。

タスク ID

タスク ID	操作
qos	read, write

例

これは、インターフェイス コンフィギュレーション モードで **service-policy** コマンドを設定する例です。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router# configure
RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# interface bundle-ether 655
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-if)# service-policy output svlan-policy subscriber-parent
resource-id 1
```

service-policy（インターフェイス）

インターフェイスのサービス ポリシーとして使用される入力インターフェイスまたは出力インターフェイス、および必要に応じて複数のサブインターフェイスにポリシー マップを対応付けるには、適切なコンフィギュレーション モードで **service-policy** コマンドを使用します。 入力または出力インターフェイスからサービス ポリシーを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

service-policy {**input**| **output**} *policy-map* [**shared-policy-instance** *instance-name*]

no service-policy {**input**| **output**} *policy-map* [**shared-policy-instance** *instance-name*]

構文の説明

input	指定したポリシー マップを入力インターフェイスに付加します。
output	指定したポリシー マップを出力インターフェイスに付加します。
policy-map	対応付けるサービス ポリシー マップ（**policy-map** コマンドによって作成）の名前。
shared-policy-instance	（任意）複数のサブインターフェイス間でQoSリソースを共有できるようにします。 （注） 複数の物理インターフェイス間での共有はサポートされていません。
instance-name	（任意）共有ポリシー インスタンスを識別する、最大 32 文字の文字列。

コマンド デフォルト

サービス ポリシーは指定されていません。

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション

レイヤ 2 送信コンフィギュレーション

サブインターフェイス コンフィギュレーション

ダイナミック テンプレート コンフィギュレーション

コマンド履歴

リリース	変更内容
リリース 3.7.2	このコマンドが追加されました。

リリース	変更内容
リリース 3.9.0	このコマンドが、バンドルインターフェイス上の共有ポリシーインスタンスをサポートするように更新されました。
リリース 3.6.0	コマンドが、レイヤ 2 送信コンフィギュレーション モードでサポートされました。
リリース 4.3.0	コマンドは、BNG のダイナミック テンプレート コンフィギュレーション モードでサポートされました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。 ユーザ グループの割り当てのためにコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

1 つのポリシー マップを 1 つ以上のインターフェイスに対応付けて、そのインターフェイスのサービス ポリシーを指定できます。 ポリシー マップを構成するクラス ポリシーが、そのクラスのクラスマップ一致基準を満たすパケットに適用されます。 新しいポリシーをインターフェイスに適用するには、前のポリシーを削除する必要があります。 新しいポリシーで既存のポリシーを置き換えることはできません。

ダイナミック テンプレート コンフィギュレーション モードを開始するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **dynamic-template** コマンドを実行します。

タスク ID

タスク ID	操作
qos	read, write

例

この例は、Packet-over-SONET/SDH（POS）インターフェイス 0/2/0/0 に適用されたポリシー マップ policy1 を示しています。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# class-map class1
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-cmap)# match precedence ipv4 1
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-cmap)# exit
RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# policy-map policy1
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-pmap)# class class1
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-pmap-c)# set precedence 2
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-pmap)# exit
RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# interface pos 0/2/0/0
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-if)# service-policy output policy1
```

この例は、GigabitEthernet サブインターフェイス 0/1/0/0.1 に適用されたポリシー マップ policy2 を示しています。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# class-map class2
```

```
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-cmap)# exit

RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# policy-map policy2
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-pmap)# class-map class2
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-pmap-c)# set precedence 3
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-pmap)# exit

RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# interface gigabitethernet 0/1/0/0.1
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-subif)# service-policy input policy2 shared-policy-instance
ethernet101
```

この例は、Bundle-Ether インターフェイス 100.1 および 100.2 に適用されたポリシー マップ policy1 を示しています。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# interface Bundle-Ether 100.1
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-if)# service-policy policy1 shared-policy-instance subscriber1
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-if)# exit

RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# interface Bundle-Ether 100.2
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-if)# service-policy output policy1 shared-policy-instance
subscriber1
```

この例は、ダイナミック テンプレート コンフィギュレーション モードで適用されたポリシー マップ ポリシー 1 を示しています。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router(config)#dynamic-template type ppp p1
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-dynamic-template-type)#service-policy policy1
shared-policy-instance subscriber1
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-dynamic-template-type)#exit

RP/0/RSP0/CPU0:router(config)# dynamic-template type ipsubscriber ipsub1
RP/0/RSP0/CPU0:router(config-dynamic-template-type)# service-policy output policy1
shared-policy-instance subscriber1
```

show qos inconsistency

インターフェイス上の QoS ポリシーの不一致情報を表示するには、EXEC モードで **show qos inconsistency** コマンドを使用します。

show qos inconsistency {**detail** *warning-type* {**file** *filename*| **location** *node-id*}| **summary** {**file** *filename*| **location** *node-id*}}

構文の説明

detail	不一致のインターフェイスおよびポリシー名の詳細を表示します。
warning-type	表示する警告タイプを選択します。 • 0：すべての警告タイプ • 1：ANCP - No shaper at top policy map（最上位ポリシー マップにシェーパーがありません） • 2：ANCP - Multiple classes at top policy map（最上位ポリシー マップに複数のクラスがあります） • 3：ANCP - Downstream rate less than shaper rate（ダウンストリーム比率がシェーパー比率を下回っています） • 4：ANCP - Downstream rate more than port speed（ダウンストリーム比率がポート速度を上回っています） • 5：ANCP - Policy resolution failure（ポリシーを解決できません） • 6：ANCP - Traffic manager program failure（トラフィック マネージャをプログラムできません） • 7：Port speed - Policy resolution failure（ポリシーを解決できません） • 8：Port speed - Traffic manager program failure（トラフィック マネージャをプログラムできません） • 9：Bundle member addition failure（バンドル メンバを追加できません） • 10：Interface state not matching system configuration（インターフェイス状態がシステム設定と一致しません）
file *filename*	disk0:tmp.log または bootflash: などのファイル名を指定します。
location *node-id*	指定したノードの詳細な QoS 情報を表示します。 *node-id* 引数は、rack/slot/module の形式で入力します。
summary	QoS 不一致警告数のサマリーを表示します。

コマンド モード

EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
リリース 3.7.2	このコマンドが追加されました。
リリース 4.3.0	コマンドは、BNG のダイナミック テンプレート コンフィギュレーション モードでサポートされました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。 ユーザ グループの割り当てのためにコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

ダイナミック テンプレート コンフィギュレーション モードを開始するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **dynamic-template** コマンドを実行します。

タスク ID

タスク ID	操作
qos	read

例

次に、QoS ポリシー不一致の詳細をすべての警告タイプについて表示する例を示します。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router# show qos inconsistency detail 0 location 0/7/CPU0

Interface Lists with QoS Inconsistency Warning:
=======================================================

                     Node 0/7/CPU0
-------------------------------------------------------

Interfaces with QoS Inconsistency:  ANCP - No Shaper at top policymap
=========================================================================
Interface                  Direction  Policy Name             SPI Name
-------------------------------------------------------------------------
GigabitEthernet0/7/0/1.5     output    parent-none

Interfaces with QoS Inconsistency:  ANCP - Downstream Rate less than Shaper Rate
=========================================================================
Interface                  Direction  Policy Name             SPI Name
-------------------------------------------------------------------------
GigabitEthernet0/7/0/1       output    parent                   SPI1
GigabitEthernet0/7/0/1.2     output    parent
GigabitEthernet0/7/0/1       output    normal-policy-name      normal-spi-name
```

次の例では、不一致警告数のサマリーを表示します。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router#
RP/0/RSP0/CPU0:router# show qos inconsistency summary location 0/7/CPU0

Summary Counts of QoS Inconsistency Warnings:
```

```
=========================================================

                    Node 0/7/CPU0

   Inconsistency Warning Type                 Count
-------------------------------------------------------
ANCP - No Shaper at top policymap:               1
ANCP - Downstream Rate less than Shaper Rate:    4
```

関連コマンド

コマンド	説明
show qos interface, （14 ページ）	特定のインターフェイスの QoS 情報を表示します。

show qos interface

特定のインターフェイスの QoS 情報を表示するには、EXEC モードで **show qos interface** コマンドを使用します。

show qos interface *type interface-path-id* {**input**| **output**} [**host-link** *interface-path-id*| **location** *node-id*]

構文の説明

type	インターフェイスのタイプ。 詳細については、疑問符（?）オンライン ヘルプ機能を使用します。

interface-path-id	次に示す、物理インターフェイスインスタンスまたは仮想インターフェイスインスタンスのいずれかです。 • 物理インターフェイス インスタンス。 名前表記は *rack/slot/module/port* で、値の間のスラッシュは表記の一部として必要です。 ◦ *rack*：ラックのシャーシ番号。 ◦ *slot*：モジュラ サービス カードまたはラインカードの物理スロット番号。 ◦ *module*：モジュール番号。 物理層インターフェイス モジュール（PLIM）は、常に 0 です。 ◦ *port*：インターフェイスの物理ポート番号。 （注） ルート プロセッサ カード上に管理イーサネット インターフェイスがある場合、物理スロット番号は英数字（RSP0RP0 または RP1）で、モジュールは CPU0 です。 例：インターフェイス MgmtEth0/ RSP0 RP1 /CPU0/0。 • 仮想インターフェイス インスタンス。 数字の範囲は、インターフェイス タイプによって異なります。 ルータ構文の詳細については、疑問符（?）を使用してオンライン ヘルプを参照してください。
input	指定したポリシーマップを入力インターフェイスに付加します。
output	指定したポリシーマップを出力インターフェイスに付加します。
host-link	ホストリンクを指定します。
location *node-id*	（任意）指定したノードの詳細な QoS 情報を表示します。 *node-id* 引数は、rack/slot/module の形式で入力します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
リリース 3.7.2	このコマンドが追加されました。
リリース 4.3.0	コマンドは、BNG のダイナミック テンプレート コンフィギュレーション モードでサポートされました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。 ユーザ グループの割り当てのためにコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

show qos interface コマンドは、インターフェイスに付加されたサービス ポリシー内のすべてのクラスに関する設定を表示します。

police rate コマンドの処理キーワードによってハードウェア内にプログラムされた実際の値を確認するには、このコマンドを使用します。

ダイナミック テンプレート コンフィギュレーション モードを開始するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **dynamic-template** コマンドを実行します。

タスク ID

タスク ID	操作
qos	read

例

次に、GigabitEthernet インターフェイスの QoS 情報の出力例を示します。

```
show qos interface gig0/0/0/11.1 output

Wed Mar 18 18:25:20.140 UTC
Interface: GigabitEthernet0_0_0_11.1 output Bandwidth: 1000000 kbps ANCP: 999936 kbps
Policy: parent-3play-subscriber-line Total number of classes: 5
----------------------------------------------------------------------
Level: 0 Policy: parent-3play-subscriber-line Class: class-default
QueueID: N/A
Shape Profile: 1 CIR: 200000 kbps (200 mbps)
CBS: 100352 bytes PIR: 999936 kbps PBS: 12517376 bytes
```

```
WFQ Profile: 1 Committed Weight: 51 Excess Weight: 100
Bandwidth: 200000 kbps, BW sum for Level 0: 1000000 kbps, Excess Ratio: 100
-----------------------------------------------------------------------
Level: 1 Policy: child-3play Class: 3play-voip
Parent Policy: parent-3play-subscriber-line Class: class-default
QueueID: 136 (Priority 1)
Queue Limit: 16 kbytes Profile: 3 Scale Profile: 0
Policer Profile: 0 (Single)
Conform: 65 kbps (65 kbps) Burst: 1598 bytes (0 Default)
Child Policer Conform: TX
Child Policer Exceed: DROP
Child Policer Violate: DROP
-----------------------------------------------------------------------
Level: 1 Policy: child-3play Class: 3play-video
Parent Policy: parent-3play-subscriber-line Class: class-default
QueueID: 137 (Priority 2)
Queue Limit: 8 kbytes (11 Unknown) Profile: 4 Scale Profile: 0
Policer Profile: 24 (Single)
Conform: 128 kbps (128 kbps) Burst: 1598 bytes (0 Default)
Child Policer Conform: TX
Child Policer Exceed: DROP
Child Policer Violate: DROP
WRED Type: COS based Table: 0 Profile: 4 Scale Profile: 0 Curves: 3
Default RED Curve Thresholds Min : 8 kbytes Max: 8 kbytes
WRED Curve: 1 Thresholds Min : 8 kbytes Max: 8 kbytes
 Match: 3
WRED Curve: 2 Thresholds Min : 8 kbytes Max: 8 kbytes
 Match: 4
-----------------------------------------------------------------------
Level: 1 Policy: child-3play Class: 3play-premium
Parent Policy: parent-3play-subscriber-line Class: class-default
QueueID: 138 (Priority Normal)
Queue Limit: 2097 kbytes Profile: 2 Scale Profile: 0
WFQ Profile: 6 Committed Weight: 1020 Excess Weight: 1020
Bandwidth: 200000 kbps, BW sum for Level 1: 200000 kbps, Excess Ratio: 1
-----------------------------------------------------------------------
Level: 1 Policy: child-3play Class: class-default
Parent Policy: parent-3play-subscriber-line Class: class-default
QueueID: 139 (Priority Normal)
Queue Limit: 65 kbytes Profile: 1 Scale Profile: 3
WFQ Profile: 0 Committed Weight: 1 Excess Weight: 1020
Bandwidth: 0 kbps, BW sum for Level 1: 200000 kbps, Excess Ratio: 1
-----------------------------------------------------------------------
```

目的のバンドル ICL の出力を表示するには、**host-link** オプションを使用します。 サテライトが冗長系（バンドル ICL）でホストされている場合、qos プログラミングを確認するための qos コマンドにも host-link オプションが含まれている必要があります。

ホストリンクは下位の ICL バンドル メンバーであり、host-link オプションを通じて、ICL バンドルに属するすべてのメンバーに対してこの出力を実行できます。

たとえば、sat-ether インターフェイス gig 100/0/0/34 をホストしているバンドル ICL Bundle-Ether 2 にメンバー tengige 0/3/0/7 があるとします。 qos プログラミングを確認するための qos コマンドは次のようになります。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router # sh qos inter gigabitEthernet 100/0/0/34 output host-link tenGigE
0/3/0/7 location 0/3/CPU0
Interface: GigabitEthernet100_0_0_34 output
Bandwidth configured: 500000 kbps Bandwidth programed: 500000 kbps
ANCP user configured: 0 kbps ANCP programed in HW: 0 kbps
Port Shaper programed in HW: 500000 kbps
Policy: grand Total number of classes: 10
-----------------------------------------------------------------------
Level: 0 Policy: grand Class: class-default
QueueID: N/A
Shape CIR : ALL
Shape PIR Profile : 2/4(S) Scale: 488 PIR: 499712 kbps  PBS: 6246400 bytes
WFQ Profile: 2/9 Committed Weight: 10 Excess Weight: 10
Bandwidth: 0 kbps, BW sum for Level 0: 0 kbps, Excess Ratio: 1
```

```
-----------------------------------------------------------------------
Level: 1 Policy: parent Class: class-default
Parent Policy: grand Class: class-default
QueueID: N/A
Shape CIR : NONE
Shape PIR Profile : 2/4(S) Scale: 244 PIR: 249856 kbps  PBS: 3123200 bytes
WFQ Profile: 2/9 Committed Weight: 10 Excess Weight: 10
Bandwidth: 0 kbps, BW sum for Level 1: 0 kbps, Excess Ratio: 1
-----------------------------------------------------------------------
Level: 2 Policy: child Class: prec1
Parent Policy: parent Class: class-default
QueueID: 131264 (Priority 1)
Queue Limit: 2496 kbytes Abs-Index: 89 Template: 0 Curve: 6
Shape CIR Profile: INVALID
Policer Profile: 54 (Single)
Conform: 50000 kbps (20 percent) Burst: 625000 bytes (0 Default)
Child Policer Conform: set dscp 46  set cos 7
Child Policer Exceed: DROP
Child Policer Violate: DROP
-----------------------------------------------------------------------
Level: 2 Policy: child Class: prec2
Parent Policy: parent Class: class-default
QueueID: 131265 (Priority 2)
Queue Limit: 624 kbytes (100 ms) Abs-Index: 59 Template: 0 Curve: 6
Shape CIR Profile: INVALID
Shape PIR Profile : 2/0(E) PIR: 50000 kbps PBS: 624992 bytes
Child Mark: set dscp 46  set cos 7
-----------------------------------------------------------------------
Level: 2 Policy: child Class: prec3
Parent Policy: parent Class: class-default
QueueID: 131267 (Priority 3)
Queue Limit: 472 kbytes (100 ms) Abs-Index: 53 Template: 0 Curve: 6
Shape CIR Profile: INVALID
Shape PIR Profile : 2/1(E) PIR: 37496 kbps PBS: 468736 bytes
Child Mark: set dscp 46  set cos 7
-----------------------------------------------------------------------
Level: 2 Policy: child Class: prec4
Parent Policy: parent Class: class-default
QueueID: 131266 (Priority Normal)
Queue Limit: 60 kbytes Abs-Index: 18 Template: 0 Curve: 0
Shape CIR Profile: INVALID
Child Mark: set dscp 46  set cos 7
WFQ Profile: 2/39 Committed Weight: 40 Excess Weight: 40
Bandwidth: 0 kbps, BW sum for Level 2: 0 kbps, Excess Ratio: 4
-----------------------------------------------------------------------
Level: 2 Policy: child Class: prec5
Parent Policy: parent Class: class-default
QueueID: 131268 (Priority Normal)
Queue Limit: 44 kbytes Abs-Index: 15 Template: 0 Curve: 0
Shape CIR Profile: INVALID
WFQ Profile: 2/29 Committed Weight: 30 Excess Weight: 30
Bandwidth: 0 kbps, BW sum for Level 2: 0 kbps, Excess Ratio: 3
-----------------------------------------------------------------------
Level: 2 Policy: child Class: prec6
Parent Policy: parent Class: class-default
QueueID: 131269 (Priority Normal)
Queue Limit: 28 kbytes Abs-Index: 11 Template: 0 Curve: 0
Shape CIR Profile: INVALID
WFQ Profile: 2/19 Committed Weight: 20 Excess Weight: 20
Bandwidth: 0 kbps, BW sum for Level 2: 0 kbps, Excess Ratio: 2
-----------------------------------------------------------------------
Level: 2 Policy: child Class: prec7
Parent Policy: parent Class: class-default
QueueID: 131270 (Priority Normal)
Queue Limit: 16 kbytes Abs-Index: 8 Template: 0 Curve: 0
Shape CIR Profile: INVALID
Child Mark: set cos 5
WFQ Profile: 2/9 Committed Weight: 10 Excess Weight: 10
Bandwidth: 0 kbps, BW sum for Level 2: 0 kbps, Excess Ratio: 1
-----------------------------------------------------------------------
Level: 2 Policy: child Class: class-default
Parent Policy: parent Class: class-default
QueueID: 131271 (Priority Normal)
```

```
Queue Limit: 16 kbytes Abs-Index: 8 Template: 0 Curve: 0
Shape CIR Profile: INVALID
WFQ Profile: 2/9 Committed Weight: 10 Excess Weight: 10
Bandwidth: 0 kbps, BW sum for Level 2: 0 kbps, Excess Ratio: 1
```

関連コマンド

コマンド	説明
show qos inconsistency, （11 ページ）	インターフェイス上の QoS ポリシーの不一致情報を表示します。

show qos shared-policy-instance

入力インターフェイスまたは出力インターフェイスに付加された特定の共有ポリシー インスタンスの特定の場所に関するインターフェイス詳細を表示するには、EXEC モードで **show qos shared-policy-instance** コマンドを使用します。

show qos shared-policy-instance *instance-name* {**input**| **output**} **location** *node-id*

構文の説明

instance-name	共有ポリシー インスタンスを識別する、最大 32 文字の文字列。
input	（任意）入力インターフェイスに付加された共有ポリシーインスタンスの詳細を表示します。
output	（任意）出力インターフェイスに付加された共有ポリシーインスタンスの詳細を表示します。
location *node-id*	ノードのロケーション。 node-id 引数は、*rack/slot/module* の形式で入力します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
リリース 3.7.2	このコマンドが追加されました。
リリース 3.9.0	このコマンドが、バンドルインターフェイス上の共有ポリシーインスタンスをサポートするように更新されました。
リリース 4.3.0	このコマンドが BNG でサポートされました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。 ユーザ グループの割り当てのためにコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

ダイナミックテンプレートコンフィギュレーションモードを開始するには、グローバルコンフィギュレーション モードで **dynamic-template** コマンドを実行します。

タスク ID

タスク ID	操作
qos	read, write

例

次に、ロケーション 0/RSP0/CPU0 の入力インターフェイスに付加された共有ポリシーインスタンスの詳細を表示するコマンドの結果例を示します。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router# show qos shared-policy-instance instancetwo input location 0/RSP0/CPU0

shared-policy-instance: instancetwo input Bandwidth: 10000000 kbps
Policy: shape Total number of classes: 2
----------------------------------------------------------------------
Level: 0 Policy: shape Class: class-default
QueueID: N/A
Shape Profile: 1 CIR: 16 kbps CBS: 1024 bytes PIR: 128000 kbps PBS:1605632
bytes WFQ Profile: 1 Committed Weight: 1 Excess Weight: 1
Bandwidth: 0 kbps, Parent Bandwidth: 10000000 kbps, Excess Ratio: 1
----------------------------------------------------------------------
Level: 1 Policy: child Class: class-default Parent Policy: shape Class: class-default
QueueID: 268435466 (Priority Normal)
Queue Limit: 1572 kbytes Profile: 1 Scale Profile: 14 WFQ Profile: 2
Committed Weight: 10 Excess Weight: 1020
Bandwidth: 0 kbps, Parent Bandwidth: 0kbps, Excess Ratio: 1
--------------------------------------------------------------------------

RP/0/RSP0/CPU0:router:#show qos shared-policy-instance spi1 input location 0/1/cPU0

Instancespi1  --   Direction: input
Policy                  hier_l2_ingress
Total number of classes:   5
-----------------------------------------------
MPLS vmrid              160
IPV4 vmrid              159
IPV6 vmrid              158
    LEVEL1 class: classid    =  0x1
    class name               =   class-default
    Policer average                = 600 mbits/sec (600000 kbps)
    Policer conform burst          = dflt (16777215 bytes)
    Policer conform action         = Just TX
    Policer exceed  action         = DROP PKT

      LEVEL2 class: classid    =  0x2
      class name               =   cos3
      Policer average                = 100 mbits/sec (100032 kbps)
      Policer conform burst          = dflt (3126000 bytes)
      Policer conform action         = SET EXP AND TX
      Policer conform action value   = 1
      Policer exceed  action         = SET EXP AND TX
      Policer exceed  action value   = 2

      LEVEL2 class: classid    =  0x3
      class name               =   cos4
      Policer average                = 100 mbits/sec (100032 kbps)
      Policer conform burst          = dflt (3126000 bytes)
      Policer conform action         = SET EXP AND TX
      Policer conform action value   = 3
      Policer exceed  action         = SET EXP AND TX
      Policer exceed  action value   = 4
```

```
      LEVEL2 class: classid    =  0x4
      class name               =   cos5
      Policer average                 = 100 mbits/sec (100032 kbps)
      Policer conform burst           = dflt (3126000 bytes)
      Policer conform action          = SET EXP AND TX
      Policer conform action value    = 5
      Policer exceed  action          = SET EXP AND TX
      Policer exceed  action value    = 6

      LEVEL2 class: classid    =  0x5
      class name               =   class-default
RP/0/RSP0/CPU0:router:#show qos shared-policy-instance spi1 output location 0/1/cPU0

Instancespi1  --   Direction: output
Policy                   l2_egress
Total number of classes:   2
----------------------------------------------
MPLS vmrid               17
IPV4 vmrid               16
IPV6 vmrid               24
    LEVEL1 class: classid    =  0x1
    class name               =   qos_grp1
    queue ID                 =   18
    port ID                  =   2 (Bandwidth = 1000000, MTU = 1522)
    Queue Max. BW.           =   250 mbits/sec (250000 kbps)
    Queue Max. Burst         =   200 ms (4194304 bytes)
    Queue Limit              =   16384 packets (16384 pkts)

    LEVEL1 class: classid    =  0x2
    class name               =   class-default
    queue ID                 =   19
    port ID                  =   2 (Bandwidth = 1000000, MTU = 1522)
    Weight                   =   1 ( BW Remaining % = 0)
    Queue Limit              =   16384 packets (16384 pkts)
```

show qos summary

特定のロケーションにあるインターフェイスを表示するには、EXEC モードで **show qos summary** コマンドを使用します。

show qos summary [**shared-policy-instance** *instance-name* **location** *rack/slot/module/interface.subinterface*| **police** [**interface** *type instance*| **location** [*rack/slot/module/interface.subinterface*| *location-name*]]| **policy** *policy-name* [**interface** *type instance*| **location** *node-location*]| **queue** [**interface** *type instance*| **location** *node-location*]]

構文の説明

shared-policy-instance *instance-name*	共有ポリシー インスタンスを識別する、最大 32 文字の文字列。
location *rack/slot/module/interface.subinterface*	rack/slot/module/interface.subinterface の形式で表したノードの場所。
police	ポリサー インターフェイス統計情報を表示します。
interface *type instance*	インターフェイスのタイプと番号。
location *location-name*	場所を完全修飾で指定する文字列。
policy *policy-name*	ポリシーを識別する文字列。
location *node-location*	場所を完全修飾で指定します。
queue	キューの統計情報を表示します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

EXEC

コマンド履歴

リリース	変更内容
リリース 3.7.2	このコマンドが追加されました。
リリース 4.3.0	コマンドは、BNG のダイナミック テンプレート コンフィギュレーション モードでサポートされました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、適切なタスク ID を含むタスク グループに関連付けられているユーザ グループに属している必要があります。 ユーザ グループの割り当てのためにコマンドを使用できない場合は、AAA 管理者に連絡してください。

ダイナミック テンプレート コンフィギュレーション モードを開始するには、グローバル コンフィギュレーション モードで **dynamic-template** コマンドを実行します。

タスク ID

タスク ID	操作
qos	read, write

例

次に、共有ポリシー インスタンスのロケーション 0/RSP0/CPU0 にあるインターフェイスを表示するコマンドの結果例を示します。

```
RP/0/RSP0/CPU0:router# show qos summary shared-policy-instance instancetwo location
0/RSP0/CPU0

list of interfaces retrieved
  TenGigE0/0/0.1
  TenGigE0/0/0.2
RP/0/RSP0/CPU0:router#
```